

今、世界戦争の危機をはらむ湾岸戦争が進行し、数多くの尊い人命が奪われつづけ、原油流出による地球の環境破壊が進行している。

唯一の被爆国日本こそ、この人道に反する戦争を一刻も早く停止させ、湾岸に公正な平和を回復するために努力することが国際社会にたいする責務であるのに海部自民党政府は、アメリカの要求に屈し、多国籍軍の軍事行動を無条件で支持し、国民一人あたり一百万円の負担になるという九〇億ドルもの戦費負担と自衛隊機(小牧基地にだけ配備されているC-130H)の海外派遣を閣議決定だけで即断、国会無視の暴挙で強行した。われわれは、不法・不当な政府の戦争協力政策に、満身の怒りをこめて抗議する。

自民党政府の「豊かな国ニッポン」の宣伝とは裏腹に、日本の労働者は「カローシ」に代表される長時間・超過労働、大企業の職場専制支配と人べらし「合理化」、パート・派遣労働者など不安定雇用の増大、国鉄労働者の大量解雇をはじめとする権利侵害、差別の拡大など人間としての尊厳が奪われている。

愛労連がとりくんでいる九一国民春闘アンケートにも、「残業、残業でぐったり」「共働きでも苦しく、レジャーや衣料品をひかえてやりくりしている」「女性の働く権利の保障とは別に、一人の稼ぎでくらせる賃金は当然」「大幅賃上げや時間短縮をどうしても」など、労働者・県民に犠牲をおしつける政府・財界にたいする怒りはますますひろがっている。

しかし、その一方で大企業は、空前の高収益をあげているにもかかわらず、内外経済の「先行き不透明論」を前面におしだし、労働者の劣悪な労働条件の改善に背をむけつづけている。

全労連は、九一国民春闘に「より人間らしく、かえよう職場と社会」のスローガンをかけ、

「闇から青へ 青からこがね色へ

しめつける寒気を押しのけて

待望の朝がきた

「自衛隊海外派兵法」を廃案にし

革新沖縄県政をとりもどし

職場から地域から

労働者・国民の願いを大きく集めて

ドラマの準備は整った

君にも聞こえるだろう

押しとどめようとしても止まらぬ

たしかな流れが音をたてている

さあ 流れのなかにしっかりと立ち

九〇年代の歴史をつくる

新しいたたかいははじめよう

より人間らしく働け

より人間らしく生きるために

と、春闘をすべての労働者、国民とともにたたかおうと呼びかけている。

先の知事選挙でも、短期間のたたかいかかわらず、「福祉、教育、環境守れ」の三つの政策と「戦争協力」の訴えに、また過労死多発地帯・愛知を返上しようの訴えに、広範な県民の支持が寄せられました。

愛労連は、春闘共闘委員会に結集している仲間とともに、大幅賃上げ、労働時間短縮など切実な要求の実現をめざすとともに、とりわけ企業殺人である過労死を許さず、タダ働き、長時間・過密労働の解消、完全週休二日制実施をきっかけ、湾岸戦争反対の課題と結合し、全労連が提起する全国統一ストライキでたたかいます。

今、全国の自治体で福祉、教育などをきりすててため込んだ資金が一四兆円にも達するといわれ、愛知県でも三〇〇億円の資金がため込まれている。大企業奉仕のビック・プロジェクトを推進し、消費税の定着を国に要請する県政。湾岸戦争に賛成し、アメリカの戦争費用の追加負担要求に応える増税を無批判に受け入れる県政では、われわれのくらし、平和は守れない。

自民党政治の継続は、日本を愛知を戦争と破局に向かわせる危険な道である。われわれは、来る統一地方選挙でも広範な地域住民と手を結び、生活擁護、民主的な地方政治の確立をめざして、革新統一の勝利のために奮闘するものである。

いよいよ歴史的な九一国民春闘の本番である。

われわれは、職場・地域を基礎に切実な要求と悩みを出し合い、県内の隅々から九一国民春闘・統一地方選挙勝利をめざすたたかいを展開するとともに、「湾岸戦争反対・政府は戦争協力をやめよ」「より人間らしくかえよう! 職場と社会」の課題実現のために、すべての労働者・県民と固く団結して、愛知に「平和の地殻変動」をおこすべく、たたかいに立ち上がるものである。

右、宣言する。

一九九一年二月九日